

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700649		
法人名	株式会社 想健		
事業所名	グループホームいにしえ(2階ひだまり)		
所在地	福島県須賀川市下宿83番地		
自己評価作成日	平成30年2月20日	評価結果市町村受理日	平成30年5月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成30年3月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

庭には四季折々の花木が植えてあり、小さいながらも畑があり一緒に種や苗を植え収穫を楽しめるようにしている。ホーム内は古民家風で畳み敷きの小上がりと居室もあり落ち着いた住まいとなっている。

利用者様それぞれ見合った力を活かせるよう、準備や段取りをし役割を持ち生活されている。暖かい日には散歩もされるが玄関ベンチや椅子に腰掛けお茶を飲まれたり、外を眺めたり自由に過ごされるようにしている。たまにフリーの日を設け担当者と一緒にいきたい所への外出や外食、部屋片付け等行えるようにしている。楽しみの1つに、行事食、誕生日食(好みの物)の他毎週水曜日は希望食の日とし順番で食べたい物を食べられるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、いにしえ理念を唱和し、スタッフ共通目標を常に意識して実践できるようにという想いではあるが、認知力の低下により、申し送り時も利用者様を傍らに同席しての慌ただしい状況になっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ゴミステーションが、いにしえの敷地内にあるため近隣の方とお会いした時は積極的に挨拶させて頂いている。町内の育成会主催の廃品回収は、資源をストックして積極的に協力している。敬老会等に近隣の児童館の子供達との交流は利用者様のたくさんの笑顔がみられる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行っていて、介護の実践・実態を経験して頂いていて、認知症介護現場で働くうえでの疑問・質問にお答えできるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進委員会の議事内容やご意見・アドバイスを伺い、即改善できる事には、対応させて頂き更に改善に向け取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	解らないことや、疑問な点や、ホームの現状等について市の担当者と常に連絡を取り合っている。地域包括のケアマネには運営推進委員会議に参加していただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間以外は施錠せず踊り場へは、いつでも自由に出入りできる状態になっていて、車いす・ベッド等での拘束もなく、センサーや見守り強化で対応させて頂いている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内出血痕や傷の有無を、入浴時・排泄介助時等に早期発見できるようにさせて頂き、それが、虐待によるものなのか皮膚疾患かどうかを、ヒヤリや日報に記入し全員で把握し確認させて頂いている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内での本年の勉強会には無かったが、資格取得のための内容に入っているのと、数年前に近隣の司法書士・民生委員の方を講師に2度程勉強会があり、以前よりのスタッフは参加し、理解しているものと思われる。次年度には、取り入れて頂きスタッフ全員が理解できるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項を契約時に説明し、同意を頂いている。 改正がある時は、現状を説明し理解や納得が得られるよう家族会総会にて話し合いをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会や家族会総会で意見を伺ったり、玄関先に意見箱を設け忌憚のない意見を述べられるようにしている。また重要事項説明時に苦情相談をいつでも市や県でも受け付けている事を説明している。 面会時には、現状態を報告したり、意見を言える問いかけをした。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の経営会議資料はコピーして各ユニットの申し送り簿に挟んで経営状態を把握してもらっている。常時、意見を言いやすい環境(特にコミュニケーション)作りに努めている。また、ユニット会議にて、意見や疑問、提案があった時には上司と相談しすぐに対応するようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回個人評価を行い、個々の努力や実績を把握して賞与等で反映、他3月の決算月にも賞与がある。会議はもちろん、勉強会や行事等でも時間外手当を出している。月4～5回の希望休があり、休みたい日は休めるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での勉強会や、外部研修は、個人の経験や力量によって可能な限り参加できるようにしている。 適時気づいた時や訴えがあった時には、技術や知識を伝えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、他グループホームとの交換研修や地域の研修委員が来て研修を行ってくれたり、その他の研修を通して交流を図りサービスの質の向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に、本人や家族、ケアマネ、スタッフ等から話を伺い極力環境を整え、カンファレンスを行い情報を把握し安心して入所できるように努めている。入所後は言動を重要視、本人の話を聞き何を望み、何が不安なのかを汲み取ったり、他者との関係性を見極め安心して過ごせるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時、家族からの話に耳を傾け家族として、今困っていることや入所後はどのような生活を望んでおられるのかなど伺い、何でも言いやすい雰囲気作りをしながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査をもとにスタッフ全員で予測されるリスクカンファレンスを行い、まず必要となる支援を見極めてサービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	テーブル拭きや、お膳拭き、タオルたたみにカレンダーの日めくり等、1人1人それぞれが出来ることを一緒に行って頂いている。役割を持ってもらいお互いに助け合える環境を作るように努力し「いつもありがとうございます」という感謝の言葉を丁寧に伝え快く行って頂けるよう支援させて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には、居室でゆっくり談話できるようにしたり、現状の報告や相談をし家族の意向を聴くようにしている。行事・草取りでは多くの家族が参加して頂けるようになり、行事では、ご家族様がボランティアで歌を披露してくださる事もあり協力を頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前からの主治医は出来るだけ継続して受診するようにしている。自分の行きつけの美容室を利用したり、ご友人の面会もご家族様の了承を得て受け入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや役割を通して作品作りで、一人ひとりが出来ることを、分担して行っていたり、利用者同士が話す機会を作り利用者同士おしゃべりを楽しんでいる時は必要以上に関わらず見守っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ほとんど死亡退所の為、行っていない。 スタッフ等、退所後ご家族様にお会いした時は、「落ち着かれましたか」等の声掛けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月、カンファレンスを行い日頃の行動や発言から本人本意に近づけるように努力している。時代劇が好きなお方には居室でDVDが観られるようにしたり、食事に関しては、「あれが嫌い、これが嫌だ」という方には別メニューで対応したり、その時の状況や訴えに応じてお粥やおむすび等を提供させていただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族や本人から聞いたり、入所後も会話の中から把握しアセスメントシートを作成して全スタッフが把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中からの気づきや本人の言動等から、都度話し合いをしたり、カンファレンス等で話し合い現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族面会時に意見・要望を伺ったり、本人の日々の言動を把握し、看護師や医師の指示も含めてサービス担当者会議・ユニット会議等では、スタッフ全員での認識を確認してモニタリングを行いケアプランを作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の言動や状況をケース記録、介護計画チェック・モニタリング表等を基に毎月のカンファレンスで課題をあげ、それに対しての改善策を実践したり、ケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の他、その時々体調の変化に必要な皮膚科や眼科、訪問歯科を取り入れ家族に報告して臨機応変に受診している。また、いつも家族が行っている通院介助が都合で出来ない時はホームで行なっている。ご家族確認の基、本人の訴えられる食べ物や品物を買い求めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	児童館の子供達を毎年、敬老会に招いて交流している。夏祭りやクリスマス会にはボランティアをお願いして場を盛り上げて頂いている。ボランティアとしてご家族様がお出でになりコンサートを行うことも有る。買い物に行きたいと訴えられる利用者様には、体調・天気を見て近くのコンビニへ出かけることも有る。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を確認し希望を優先している。家族が通院同行の希望があれば家族が、家族が行けない場合は管理者が通院同行している。また、支払や薬取りを希望される家族もいらっしゃる。病院を退院してそのまま入所される方はホームDrの往診や通院に変更する方もいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問看護ステーションと契約しており、週1回の訪問看護時に日頃の状況や不安なこと体調の変化などを報告している。看護師は変化を主治医に報告して指示を仰ぎ連携している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人の情報を提供している。担当スタッフや、管理者が見舞いに行き状態把握と看護師から現状を聞いたり退院の見通しを伺っている。また、病院で必要な物を準備して届けたり家族と密に連携を図りながら行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期について説明し家族の希望を伺っているが、その時の状況によって希望は変化するので状態変化時には、改めて主治医、家族、管理者で今後の治療方針や看取りについての話し合いを設け訪問看護や全スタッフに伝え、医療、家族、介護で連携を密にして取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成して連絡体制を整えている。応急手当の対応は特に行っていないが、何かあれば24時間対応の訪問看護に連絡して指示を受け対応できるようにしている。AED心肺蘇生の研修は行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定 of 火事や地震等の自主避難訓練を行っている(今年度は9回)他、年1回は、消防署員立ち合いのもと訓練を行っている。2階は、歩行状態が悪い方が多いので、どのようにしたら避難がスムーズにいくのか試行錯誤しながら行っているが協力体制までは整っていない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の話をじっくり傾聴したいと思うが、各利用者様「私を見て」という想が多く、本人の発言や行動を否定したり損ねない言葉かけに周知徹底を図るようスタッフ全員心がけたいが、どうしても片寄ができてしまっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で決められない方には、選択できるように働きかけをしたり、希望を伺って好きな物を提供している。レクや役割でも無理強いすることのないように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全て利用者様のペースで行う事は困難であるが、なるべくスタッフ都合のケアやペースにならないように意識している。スタッフは声掛けをするがその日の本人の体調や希望で居室で寝ていたり自由に過ごして頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時にご自分で行える方には、声掛け・見守りさせて頂き、他の方には、ホットタオルと櫛をお渡ししてご自分で出来る所は行って頂き、出来ない所はお手伝いさせて頂いています。一日に何度も更衣される利用者様が数名おられるので、更衣時は転倒のないよう見守り洗濯物は、声かけしてお預かりさせて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	「あれが嫌、これが嫌と」食べられない方には別メニューを提供したり説明させて頂き食事を促したり、見えずに手をつけない時等は、声かけし器を移動して食事が終わる頃合いを見て下膳して頂いたり、テーブル拭きや食器拭きも利用者様と行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限のある方、好き嫌いの多い方などにも個別に対応している。体重が増加してしまわないように食事量も個別に対応し、脱水にならないように好みの水分をこまめに取って頂きチェック表に記入し1日の水分摂取量を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがい、義歯洗い、歯磨きなど一人ひとりにあった口腔ケアを行っている。自分で出来る人は声かけさせて頂き促して行っていた。体調不良や出来なくなってしまう方には介助し、場合によってはスポンジブラシで介助している。夕食後は義歯洗浄剤で消毒している。必要に応じて歯科受診も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンが掴めるようチェック表に記入し夜間オムツでも日中はリハパンで定期的に誘導し出来るところをやってもらいながら排泄を促している。夜間トイレ使用される方にはセンサーで察知できるようにしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日体操をしたり、介助して歩行運動を行い体を動かしている。トイレ介助時にマッサージ・ウォシュレットさせて頂き排泄を促し各利用者様の排便パターンを把握し、毎朝牛乳や、ヨーグルトを飲んで頂いたり必要に応じて訪問看護・受診時に連携して、内服を検討して頂き対応させて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	特に入浴日は決めてなく本人に入るか否かを伺ったり、チェック表をみて声かけしながら臨機応変に対応している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調整や時には加湿器を使用したり、音や灯りに気を配り快適な状態でゆっくり休めるようにしている。歩行状態が悪い方にはセンサーを置き、不安を取り除けるよう見守りを強化している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの受診記録と薬の説明書を1冊のファイルにしていつでも確認できるようにしてスタッフは全員目を通して把握している。内服時には「月日や○食後の薬です」と確認して内服して頂いている。変化時は支援経過や日報に記録し申し送りをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や嗜好品はアセスメントシートで全スタッフに周知して把握しておりレクや役割を通して活かしている。都度の買い物依頼に応じたり近くのコンビニへ車いすで買い物へ一緒に出掛け気分転換も図っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候をみながら散歩や花見、行事等出来るだけ外出できるようにしている。スタッフと1対1での買い物や家族と出かけ外食して戻られる方もおられる。また定期的に馴染みの美容室へ行かれたり家族と自宅に戻られる方もいる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの小遣いはホームの金庫で預かり、欲しいものがある時はいつでも購入できるようにしている。都度、金銭出納帳をつけて月末にコピーと領収書を家族へ郵送している。ご自分で少額を所持している利用者がいらっしゃり、買い物の了承は事前にうけていて近くのコンビニで買い物されご自分で支払いご家族様に報告させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎週水曜日、電話で娘様と話をしたり、娘さんや親戚に手紙を出すので宛名を書いてほしいとの要望に応じている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物が古民家風になっており、落ち着いた雰囲気の中で居心地良く過せるようにしている。また、季節や行事に合わせて利用者様と作った作品を飾ったりしている。鉢植えの植物を置き、水やりの担当の利用者が管理している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日のあたる踊り場は、日向ぼっこするのに最適でソファで気ままに過ごすことができている。相性などを考慮してテーブル席を決め気の合う同士が会話をしやすいようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	馴染みの物を持ってきていただくようお願いしている。位牌や写真、自分で使っていたテレビや衣装ケース、寝具類などを持ってきて生活されている。居室内壁に飾り付けをし明るくされている方もおられる。時間を気にされる方は、家族が壁掛け時計を準備している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	通路には物を置かないようにして歩行の妨げにならないようにしている。各居室に大きな文字で表札をつけている。トイレにはトイレや便所と表記して迷ったり混乱しないようにしている。		